

Orchard シリーズ



Presents

プラスチック

K-BALLET
Op+0

PLASTIC

美しい時代へ — 東急グループ

PLAプラスチック



K-BALLET Opto プラスチック PLASTIC

2023年1月8日(日)～1月9日(月祝) 3公演
KAAT 神奈川芸術劇場〈ホール〉

1月8日(日) 12:30
1月8日(日) 16:30
1月9日(月・祝) 12:30

主催・製作：**Bunkamura** / 
特別協賛：PwC Japan グループ
提携：KAAT 神奈川芸術劇場

K-BALLET Optoとは
Bunkamura オーチャードホール フランチャイズカンパニーであるK-BALLET COMPANYとBunkamuraによる新プロジェクト。新進気鋭の振付家によるオリジナル作品や他ジャンルとのコラボレーションなど、ダンスの魅力を多角的に捉えた作品で、K-BALLETの新たな光(=Opto)を生み出し、多くの方々に鮮烈なライブ体験を提供することを目的にしている。



本日はK-BALLET Opto 公演「プラスチック」へご来場いただき、誠にありがとうございます。

K-BALLET COMPANYは来年25周年を迎えますが、創立以来の信念のひとつに、バレエという伝統芸術の継承は、現代に生きる我々が新たな価値を付加してこそ成し得る、という想いがあります。

そんな現代を生きる我々がいま、真正面から向き合わねばならない課題のひとつに、SDGsを挙げることに異論はないでしょう。地球環境をより良く、という思いは、個々人が心から願わねば実現不可能であり、人の心を動かす大きな力を持つ芸術との連携に大きな可能性を感じます。

コロナ禍や自然災害、環境汚染のニュースに触れる度に日常を取り巻く社会環境の有難さを実感しているのは、我々芸術家も然りであり、そんな今を生きる感性の投影こそが芸術を生かし続けるのです。

さりとて、バレエという芸術においてSDGsに挑むことは、未開拓の分野です。K-BALLET Optoが旗揚げ公演からわずか3カ月で、Bunkamuraとともにこの果敢な挑戦の実現に至ったことを大変誇りに思います。

最後に、特別協賛いただいておりますPwC Japan グループ様をはじめ、本公演実現のためにご尽力賜りました関係者各位に厚く御礼申し上げます。また、観客の皆様のご支援に心より感謝いたします。

K-BALLET COMPANY / Bunkamura オーチャードホール
芸術監督 熊川哲也

プロダクション・ノート

高齢者は増える一方だが、「老婆」は街から姿を消した。子ども時代、何をして生計を立てているのか、冬はどこにいるのか、そして何を食べているのか、全く得体の知れない大人の姿を街で一人は見かけたのではないか。彼ら異人を、子どもは賤視と畏怖のいずれもが入り混じった複雑な視線で見つめる。私もその一人であった。

雨上がりの文化村通りで、大量のビニール傘がうち捨てられていた。その惨めな傘たちの姿を見た時、ふと子ども時代の記憶が蘇る。

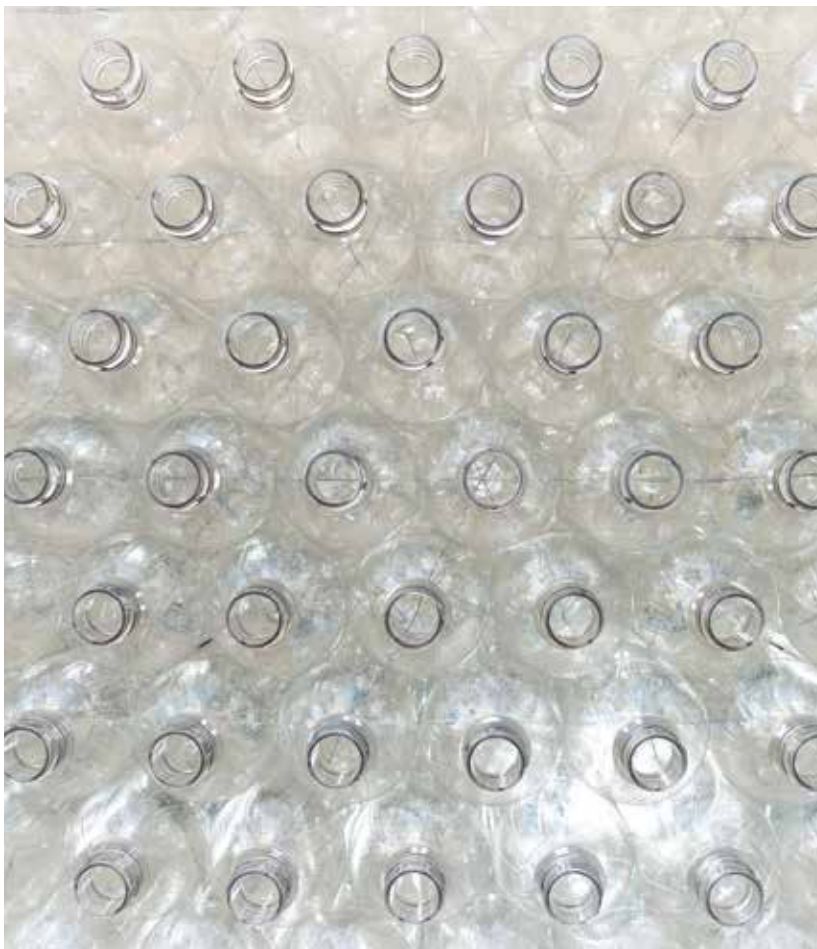
近所の公園に、ユキという老婆がいた。当時小学生であった私は、下校途中友人とユキにちょっかいを出すのが最もスリリングな冒険であった。しめ縄の如く太くきつく結われた白髪、薄汚れた硬い皮膚、そして呪文のようにブツクサ宙に話しかけるユキの姿は、怖くもあり、でも会いに行くのを止めることはできなかった。ユキは、毎日買物カートを押していた。そこには、かろうじてクマだとわかるほどに擦り切れたぬいぐるみと、たくさんのビニール傘が積まれていた。彼女は、公園の一角に陣取ると毎日16時きっかりに、その傘たちを丁寧にあたり一面に開き、そしてまた閉じる。その仕草は、何やら厳かな神事かのようで、神々しくも見えた。その張り詰めた空気からか、悪友と私はその儀式が終わるまでは決してユキに話しかけることはなかった。

そんな思い出の詰まった公園は、10年前に全面芝生の「プレイグラウンド」というハイカラなそれに建て替わった。ボール遊び禁止の表札ができ、小洒落た家族の姿で賑わう。もちろん、そこにユキの姿はない。

ユキはどこへ行ってしまったのだろうか。

すべてが消毒されキレイになりすぎた我々の社会に彼女の居場所はないのだろう。「価値がある・ない」の尺度によってすべてが判断され、役に立たないものは、あなたの代わりにどこかの誰かが処分してくれる。廃棄したその先を我々が直接見ることはなくなり、同時に捨てられるものへの畏怖も消え失せた。ユキがもう戻ってこないのと、ビニール傘がとめどなく打ち捨て続けられるのは無関係ではいられないのではないか。社会は潔癖症患者のように、得体の知れないもの、汚いものを捨てる。そして、すべてが分業・代行されたおかげでその過程には無関心でいられる。それゆえに、各人がクリーンな街を目指すほど、捨てられるものは増え、ゴミは無限に増殖する。なんと皮肉ではないか。しかし、捨てられたビニールは朽ち果てることがない。百年経っても分解されず、一瞬の持ち主の記憶を頼りに生きながらえる。ビニール傘は、ユキという老婆そのものの姿かもしれない。社会から捨てられた老婆は、行くあてもなく記憶の中に埋没する。

プラスチックはただの環境問題ではない。ケガレ・捨てるものへ、畏怖の念を抱かなくなったにっぽんの失われた社会的価値観の問題なのかもしれない。





音楽 | J.S. バッハ：前奏曲とフーガ ホ短調 BWV.548「楔」、G. リゲティ：ヴォルミーナ、他
振付・演出・台本 | アレッシオ・シルヴェストリン
企画 | 高野泰寿
舞台美術 | アレッシオ・シルヴェストリン、坂田直哉・盧 雨凡(東京工業大学 塚本研究室)
照明デザイン | 伊藤雅一
衣裳デザイン | アレッシオ・シルヴェストリン

天地が赤く染まった海辺。打ち寄せる波……。
いくつものペットボトルが波に揺られ、浜辺に打ち上げられている。よく見るとペットボトルの中にはそれぞれ男女の姿が。彼らは互いに近づくことができず、触れ合うこともできない。
そこへ若き僧ジュリアンが浜辺に現れ、その残酷無比な姿を目にし、鎮魂の舞を天に奉納する。
その途端、天地に轟音が響き海の彼方からビニールの球体に包まれた女が姿をあらわすや、ペットボトルの膜が剥がれ人々は新たな動きを得る。
若き僧侶と解放された人々はビニールの女の導きに従い、冥界と思しきところにたどり着く。が、百鬼の光を放つ巨大なペットボトルの精の群舞に見舞われる。ペットボトル迷宮の悪夢から覚醒を願う若き僧ジュリアンの舞……。

いずれはゴミとして捨てられることを運命づけられているものの、再生されないままのペットボトルは、朽ちることもできずにどれほどの時を過ごしたのだろう。ペットボトルは、高度文明化社会の象徴なのだろうか。いや、もしペットボトルそのものが、我々人間がプラスチックをプリコラージュした「野生の思考」の結果なのだとしたら、ペットボトルの無限増殖は人間の生得的行動の結果なのかもしれない。満たされることなく、無限に増え続けるペットボトル。その輪廻の迷宮の前に我々はただ彼らを供養することしかできない。



アレッシオ・シルヴェストリン
Alessio Silvestrin

モンテカルロ市グレース王妃ダンス・クラシック・アカデミー、ローザンヌ・ルードラ・ベジャールを卒業後、ベジャール・バレエ・ローザンヌ、リヨン・オペラ座バレエ団にてダンサーおよび振付家として活動。1999年よりウィリアム・フォーサイス率いるフランクフルト・バレエ団に所属し、退団後もゲスト・アーティストとして出演。03年より日本を拠点に、日本国内外の創作活動に携わる。05年、愛知芸術文化センターのダンス・オペラ『青ひげ城の扉』で演出、振付、映像、美術を担当し、自身も出演。同年、ヴェネチア・ダンス・ビエンナーレからの招聘で『Ritrovare/Derivare』を能楽師・津村禮次郎と共演。11年、Noism 01のために『折り目の上』、14年にはARCHITANZ 2014にて『Opus 131』を発表。19年にはパリ・オペラ座350周年祝賀イベントのオープニング作品として杉本博司演出で『鷹の井戸』を振付。最新作には作曲・演出を担当した演奏会『百人一首のための注釈』がある。



音楽 | I. クセナキス：ジョンシェ（蘭草の茂る土地）、
L.v. ベートーヴェン：ピアノ協奏曲第5番 変ホ長調 Op.73『皇帝』より第2楽章、他
振付・演出 | 渡辺レイ
企画・構成・台本 | 高野泰寿
原案 | 三島由紀夫『近代能楽集「卒塔婆小町」』、太田省吾『小町風伝』
舞台美術 | 渡辺レイ 照明デザイン | 伊藤雅一 衣裳デザイン | 貫井倫佳

物語は、壊れかけのベンチやプラスチックの廃品が捨てられている都会の小さな公園ではじまる。檻をまとった老婆が乳母車を押しながられれる。集めたビニール傘を取り出し、なにやらブツブツ呟きながら、儀式のつもりなのだろうか、一本ずつ傘を開き置いていく。夢と現を行き来している老婆、現にいる時間はだんだん短くなっている。ポリ袋で作った衣裳に身を包んだ奇抜な神々が現れた。老婆は自分の妄想の世界に棲む神々を呼び出したのだ。老婆の妄想の世界、夢の時間が始まる。神々が踊り出した。老婆も踊り出す。まるで荘厳な神事のごとく。「だれ？ あたしの夢を覗くのは……あんだだね。あたしにつきまとうのは深草の少尉さん。そうか、今宵は九十九夜ってわけね」若い男性が登場してきた。どうやら老婆の想い人のようだ。あれが深草少尉か。老婆の妄想が狂気を孕み、ついに少尉を呼び出してしまった。白い蚊帳地の衣服から深草少尉は軍服姿に。老婆は羽織のつもりなのか、赤いビニール風呂敷を身に着けた。場面は変わりまるで鹿鳴館のような舞踏会の会場。老婆が人生で一番美しく輝いていた時らしい。かつて小町と呼ばれた老婆、生命力に溢れ、透き通るような肌の美しい娘となって、青年将校とのダンスを披露する。みなが羨む似合いのカップル。夢よ醒めないで……。

一転し、現に。妄想が解けた老婆は、重い足を引かず乳母車に寄りかかるようにしてゆっくりと歩き出す。どこへ向かって？ 行くあてなどない。打ち捨てられたビニール傘のように人の視界に入らない場所へと彷徨うだけ。全編キッチュな世界観。死ねない醜い老婆は今も生きており、ビニール傘は傘の役目を果たせなくても存在している。



渡辺レイ
Rei Watanabe

山本禮子バレエ団にて山本禮子に師事し、第47回東京新聞全国舞踊コンクール第1位 文部大臣奨励賞を受賞。1993年オランダのネザーランド・ダンス・シアター2入団。その後、リヨン・オペラ・バレエ団、ヨーテポリ・オペラ・バレエ団、ネザーランド・ダンス・シアター1、クルベルグ・バレエ団で活躍。2000年マルティーン・ムラー振付『ロミオとジュリエット』のジュリエット役にベストダンサー賞を受賞。06年よりオランダとチェコを拠点にフリーランスダンサーとして活動後、拠点を日本に移し12年に“Opto”を結成。16年にはK-BALLET COMPANY Ballet Gentsのために『The time of evocation』を振付、翌年、熊川哲也との共同振付・出演による『Fruits de la passion ~パッションフルーツ』でK-BALLET COMPANY公演に参加。18年には同バレエ団で『FLOW ROUTE』振付。19年9月にK-BALLET COMPANY 舞踊監督に就任し、現在はK-BALLET Opto 舞踊監督を兼任する。



チェンバロを弾き作曲もする、ハイブrouな振付家

アレッシオ・シルヴェストリン

©Wilian Aguiar



イタリア生まれのアレッシオ・シルヴェストリンは、モンテカルロ市グレース王妃ダンス・クラシック・アカデミー、ローザンヌ・ルードラ・ベジャールで学んだのち、ルードラの学校の卒業生として初めてベジャール・バレエ・ローザンヌに入団した。ダンサーとしての活動を続けながら、音楽学校でピアノ、チェンバロ、さらに作曲も学ぶ。フォーサイス率いるフランクフルト・バレエ団などで活動したのち、2003年に日本に拠点を移し、フリーランスの振付家、作曲家として活動している。

刺激的だった90年代

——最初にベジャール・バレエ・ローザンヌに入団されたのですか。

S はい。ベジャールは私の師匠です。ルードラの学校で学んでいた頃、ベジャールは学校のために多くの時間を割いてくれました。私は彼から直接レパートリーを学ぶことができたのです。ダンサーとして自分は、一緒に仕事をしている振付家のスタイルを学び、吸収し尽くして、彼らの表現したいことを自分の解釈を通して表現することに重点を置いていました。ベジャールがいて、まだピナ・バウシュもいたし、マッツ・エックなどが自分のカンパニーで多くの作品を発表していました。1990年代ごろ、新しいものが生まれていた時代です。とても多くのインスピレーションを受けました。

——振付を始めたのはいつ頃ですか。

S 最初に振付を行ったのは、ベジャール・バレエ・ローザンヌにいたときでした。私は常に振付をしたいと思っていましたので、ベジャールと一緒に仕事をするので多くを学びました。

——ダンスを続けながら学校に通って音楽の勉強をされたのですか。

S そうです。カンパニーで踊りつつ、音楽院にも通っていましたので、とてもハードな生活を送ってました。あるときフランチェスコ・ヴァルダンブリーニという作曲家との出会いがあり、プライベートで師事しました。彼からはトリコルダレという作曲方法であるセリー主義の一種を学びました。例えば『百人一首のための注釈』（2021年）はその技法で作曲しています。また、初期の鍵盤楽器独奏の楽譜（14世紀の『ロバーツブリッジ写本』、15世紀の『ファエンツァ写本』）の研究もしています。

音楽は振付に構成を与えます。作曲する際に使用する順列は、振付の過程を支えるものであり、身体構造を表現するためのツールです。このように音楽と振付は密接な関係性を持っているのです。ですから私が音楽を学ぶのは自然なことなのです。

日本の伝統芸術、能への関心

——日本の芸術、特に能に関心がおありですね。

S 日本にきて20年になります。日本で生活できるようになったのは日本の人たちが寛大で、私のやっていることがここでも役に立つと感じさせてくれたおかげです。

能にはとても興味を持ちました。学べば学ぶほどまだ知らないことが多いと気づきます。私が「能に興味がある」と言うとき、浅い理解のことなのです。だから、能のことを話すときは、とても謙虚です。私は能のある部分を理解しているに過ぎないのでもっと深く繊細な部分を理解したいです。

振付家のプロダクション・ノート

アレッシオ・シルヴェストリン

Alessio Silvestrini

渡辺レイ

Rei Watanabe

Accelerated by the flow of capitalism, “civilized” thinking experiences stratified patterns in a society that has become increasingly “plastic.” Consequently, “wild” thinking appears to have little plasticity, although it shares a similar structure with “civilized” thinking.

Wouldn't the incomplete system of consumption, symbolically represented by PET bottles, be something that human beings innately desire?

Through the encounter with the “plastic” abandoned by science, the “flesh” might transform reality.

The body as a labyrinth.

（訳）

資本主義は流動し、ますます「可塑的」（プラスチック）になる社会にあって、パターンの上パターンをかさねる「文明」の思考は結果的に、可塑性をほとんど持たないように見える「野生」の思考を見い出しました。ただし、構造的には相似のものとしてのそれを。

ペットボトルが記号的に表象するような、消費というシステムの不完全性も、人間がもともと欲しているものだとしたら？

〈肉体〉は、科学に見捨てられた〈プラスチック〉と出会い、実在は一変するかもしれません。

迷宮としての身体。

目を閉じるとそこには、温かい空気が漂う。老婆の心の中は、若き頃の凛とした美貌、華やかな過去、愛した人への底知れぬ想い、そして、現実の老いを受け入れようともがく気持ちで錯綜する。それは彼女をあの世とこの世の狭間に向かわせ、妄想の世界へと誘う。

人間が作り出したプラスチックは便利であるが愛がない故、捨て去られていく。かつて美しかった老婆も捨て去られていく。傘＝プラスチック、老婆は、一度は愛された記憶と思い出を頼りに、迫り来る現実を受け入れ共に生き抜く。美しき人生、そして誰もが平等に訪れる死……。老婆の想いは、永遠と繋がれていく。

舞人ジュリアン・マッケイ インタビュー

「プラスチック」公演でSDGsを 取り上げることについて

熊川哲也さんが率いる輝かしい歴史を有するバレエ・カンパニーが、芸術性を追求するとともに環境問題に焦点を当てることは革命的なことですし、バレエ界の今後の未来にとっても重要だと思います。僕の知る限り世界で初めての試みではないでしょうか。

プラスチックの発明自体は素晴らしく、我々の生活を便利にそして豊かにしてきたことは事実です。しかしながら、すでに環境問題となっているわけで、今後どのようにプラスチックを使っていくのかを考えなければならない。いつまでも同じ考えのままではいけないとみな気がついています。最初に開発された時は良かったのに環境に悪影響を及ぼすようになった今、どうすればいいのか。使うのを完全に廃止しようという極端な姿勢ではなく、ポジティブな発想でいかにプラスチックと共存していくかを考えるべきだと思います。実際リサイクルという解決策を見出しており、この発想はとてもクリエイティブなこと。一人ひとりが良い解決に向かうよう意識するのが大事で、ただつねに強く意識しているわけではない。この公演を見に来てくださった方がそういうことを改めて意識してくださる機会になれば嬉しいです。

新作のクリエイションに参加して

一緒に仕事をする振付家、ダンサーは初対面の方ばかりなので互によく知り合い、相手の考えを理解することが大事なのです。クリエイション当初は振りを吸収してこれで正しいかと思わせ、という答え合わせをしているようでしたが、密にリハーサルをしていく中で、アレッシオ（シルヴェストリン）が発する前にアイデアがなんとなく想像ができるようになり、今は、同じゴールに向かって進んでいるという一体感が生まれています。僕は性格上、極端なシチュエーションが好きなん

です。振りの難易度はとても高いとはいえ、凄まじいスピードで身につけなければならないのは自分にとっても良いチャレンジで、次のステップへとつながると思っています。楽しく、やりがいも感じています。

アレッシオは、一言でいうととてもユニークな振付家です。これまで多くの振付家と仕事をしてきました。アイデア、コンセプトは毎回新しい出会いがありましたが、振付という意味では、自分の慣れ親しんだ動きが多かったように思います。しかしアレッシオには今までにやったことのない振付を求められます。振り自体の解釈も正確。この動きで「何を見せたいか」をはっきりと意識している方なので、例えばアームスの動きでも、ただ単に腕を出すだけではなく、あなたに向かって出しているんだ、というように伝えたい意図がとてもはっきりしているので、観ている側にもしっかり伝わるのではないのでしょうか。

ダンサーにとって新しいスキル、テクニックの上達は大事ですが、内面の成長もとても重要。そのためには時間も必要だし、経験も必要です。小さい頃からの憧れだった熊川哲也さんの率いるK-BALLET COMPANYとBunkamuraのプロジェクトに参加し、新しいことにチャレンジする機会をいただけてとても嬉しいです、少しでも内面が成長できればと思っています。

ジュリアン・マッケイ Julian MacKay

米国モンタナ州生まれ。当時外国人最年少の11歳でポリシヨイ・バレエ・アカデミーに入学。ローザンヌ国際バレエコンクールで研修賞を受賞したのち、英国ロイヤル・バレエに入団。2016年、ミハイロフスキー・バレエに移籍。世界の主要劇場でゲスト出演するほか、22年9月より元パリ・オペラ座バレエ エトワールのローラン・イレールが芸術監督を務めるミュンヘン・バレエのプリンシパルとして活動。





『ペットボトル迷宮』では、舞台美術でペットボトル容器を10000本ほど使用している。今回、表参道の「SmaGOプロジェクト」（リサイクルボックスを表参道に設置し街の美化、効率的な資源回収に貢献する）を行っている株式会社FORCETECが「プラスチック」公演の趣旨に賛同していただき、「プラスチック」公演告知のラッピングをリサイクルボックスに施し、設置された（2022年12月～2023年1月上旬）。

また、ペットボトルの収集業者である白井グループ株式会社 (<https://www.shirai-g.co.jp>) に特別にご協力いただき、ペットボトル洗浄体験の機会を得るとともに、白井 徹社長が語る。

日本のペットボトルの回収率は96.7%。でも、物流コストが高い

「日本のリサイクル資源の分別収集は他の国に比べて徹底されています。でも、それは日本人の高いモラルゆえ、個々の善意に支えられて成立しています。一方で、欧米は生活者の分別の意識は日

本ほど高くはないのに再資源化全体のコストは日本よりはるかに低いのです。なぜかという、大きな会社が収集から分別、再資源化するまでのすべての工程を担っているからです。M&Aを繰り返して巨大になった会社、たとえばアメリカだとWaste Management、フランスだとVeoliaといった会社が、宅配業並みの物流能力で資源ごみを収集し、大きな工場で分別から再資源化までを完全機械化して行っています。日本では資源ごみを収集する、リサイクル資源を資源化工場に運ぶ、という物流コストがとても高いのが現状です」

資源のリサイクルを進めるためのコスト削減

「廃棄物処理業界はデジタル化が進んでおらず、いまだに紙書類での事務処理が主流なため管理コストがかかります。また、廃棄物・資源の収集も、一つの通りで複数の会社のトラックがそれぞれ収集作業を行うため効率的ではありません。コストの大半を占める物流コストを抑えるために、AI配車による連携収集を行って収集の効率化に取り組

んでいます。さらに、廃棄物にもRFID（無線周波数を介したタグからの識別情報を読み取る）を導入しデジタル管理をします。テクノロジーを導入し業者がつながれば、私はM&Aを行わずとも日本の廃棄物処理業界の業務効率化は進み、大幅なコスト削減が実現できると思っています。私たちのこういった取り組みは2022年度の東京都の3Rルート多様化に向けたモデル事業にも採択されており、今後も拡大に向けて進めていきます。私たちの業界と全く接点のないパレエ団の方が関心を持ってくれたのはとても嬉しいです。もっと多くの方に日本のリサイクルの現場を知っていただきたい。というのも、各業者が連携したとしてもこの業界は規制の多いビジネスであるため、街の人の賛同や合意がないと実現しません。業者のDXは街の統ルールが得られて機能するので、ごみを出さない資源循環型都市の実現に向けて、より一層の関心を持っていただければと思います」

街に捨てられていたビニール傘の一部



日本では一年におよそ8000万本のビニール傘が消費されていると言われている。ビニール傘をゴミとして出す際、「可燃ごみ」、「不燃ごみ」と「資源品（金属類ごみ）」に分別、あるいは「粗大ゴミ」として出すなど自治体により異なる。分解が困難・面倒なことからリサイクルが進まず、多くが埋め立て処理や焼却処分され廃棄問題となっている。



展覧会のために作成されたカーテンを再利用する試みが行われている。展覧会の後始末計画「アート・シマツ」というプロジェクト。このプロジェクトに「プラスチック」公演は賛同し、カーテンを舞台美術として再利用することになった。



展覧会のために作られたカーテン

2022年3月12日～6月5日まで京都市京セラ美術館 新館 東山キューブにて、開館1周年記念展「森村泰昌:ワタシの迷宮劇場」が開催されていた。森村泰昌は大規模な個展で、作品を展示するためにカーテンを新たに製作したのだった。

カーテンを作ったのは、豪華な緞帳や精緻な着物の帯といった美術工芸織物を製作している川島織物セルコンという京都の繊維会社。色は特注、遮光性生地で作られており、高さは5メートル、面積にして約2500平方メートルというとても大きなものだ。

アート・シマツという取り組み

森村は、展覧会で使用された特注のカーテンを展覧会終了後に、うまく活用できないかと考え、「アート・シマツ」というプロジェクトを構想した。そして「ほぼ日刊イトイ新聞」に企画を持ち込み、プロジェクトは始動する。

森村は「展覧会が終わっても、まだまだ、おもしろいことがつづく。」ことを目的としており、決してビジネスが目的ではない。

アンケートを募り、どのような用途で使用するのかわかった上で「経費+α」で譲るという。

SDGsを意識した舞台である「プラスチック」制作チームはこのプロジェクトに賛同し、今回のコラボレーションが実現した。カーテンは『ビニール傘小町』にて姿を変えて登場する。

「アート・シマツ」プロジェクトの詳細

https://www.1101.com/n/s/art-shimatsu_morimura/index.html

森村泰昌(もりむら やすまさ)

美術家。1951年、大阪市生まれ。京都市立芸術大学、専攻科終了。1985年にゴッホの自画像に扮したセルフポートレート写真を発表。以後、一貫して「自画像的作品」をテーマに、美術史上の名画や往年の映画女優、20世紀の偉人等に扮した写真や映像作品を制作。国内外で多数の個展を開催。著作・評論も多数。2018年大阪北加賀屋にモリムラ@ミュージアムが開設される。



ペットボトル迷宮



ジュリアン・マッケイ

ビニール傘小町



白石あゆ美



飯島望未



日高世菜



石橋奨也



山本雅也



堀内将平



成田紗弥



小林美奈



杉野 慧



関野海斗



戸田梨紗子



栗山 廉



奥田祥智



吉田周平



グレゴワール・ランシエ



高橋怜衣



吉田早織



栗原 柊



佐伯美帆



金 瑛揮



辻 梨花



本田祥平



山田夏生



岡庭伊吹



世利万葉



塚田真夕



吉岡真友子



高橋芳鳳

K-BALLET COMPANY

芸術監督 ARTISTIC DIRECTOR

熊川哲也 Tetsuya Kumakawa

舞踊監督 BALLET DIRECTOR

渡辺レイ Rei Watanabe

音楽監督 MUSIC DIRECTOR

井田勝大 Katsuhiko Ida

副舞踊監督 VICE BALLET DIRECTOR

浅川紫織 Shiori Asakawa

バレエ・マスター BALLET MASTERS

西野隼人 Hayato Nishino

酒匂 麗 Rei Sakoh

バレエ・ミストレス BALLET MISTRESS

山田 蘭 Ran Yamada

芸術監督補佐 ASSISTANT DIRECTORS

前田真由子 Mayuko Maeda

山口 愛 Ai Yamaguchi

名誉プリンシパル HONORARY PRINCIPALS

荒井祐子 Yuko Arai

スチュアート・キャシディ Stuart Cassidy

中村祥子 Shoko Nakamura

遅沢佑介 Yusuke Osozawa

プリンシパル PRINCIPALS

浅川紫織 Shiori Asakawa

飯島望未 Nozomi Iijima

石橋奨也 Shoya Ishibashi

日高世菜 Sena Hidaka

堀内将平 Shohei Horiuchi

山本雅也 Masaya Yamamoto

プリンシパル・ソリスト PRINCIPAL SOLOISTS

小林美奈 Mina Kobayashi

杉野 慧 Kei Sugino

成田紗弥 Saya Narita

ファースト・ソリスト FIRST SOLOISTS

浅野真由香 Mayuka Asano

岩井優花 Yuka Iwai

栗山 廉 Ren Kuriyama

関野海斗 Kaito Sekino

戸田梨紗子 Risako Toda

吉田周平 Shuheji Yoshida

グレゴワール・ランシエ Grégoire Lansier

ソリスト SOLOISTS

奥田祥智 Yoshitomo Okuda

栗原 柊 Shu Kurihara

佐伯美帆 Miho Saeki

高橋怜衣 Rei Takahashi

辻 久美子 Kumiko Tsuji

本田祥平 Shohei Honda

山田夏生 Natsuki Yamada

吉田早織 Saori Yoshida

ファースト・アーティスト FIRST ARTISTS

金 瑛揮 Yeonghwi Kim

栗山結衣 Yui Kuriyama

田中大智 Daichi Tanaka

塚田真夕 Mayu Tsukada

辻 梨花 Rika Tsuji

吉岡真友子 Mayuko Yoshioka

アーティスト ARTISTS

岡庭伊吹 Ibuki Okaniwa

川本果侑 Miyu Kawamoto

久保田青波 Aoba Kubota

鴻野寛太 Kanta Kohno

島村 彩 Aya Shimamura

世利万葉 Kazuha Seri

高橋芳鳳 Mototaka Takahashi

武井隼人 Hayato Takei

中井皓己 Teruki Nakai

藤吉沙季 Saki Fujiyoshi

布瀬川桃子 Momoko Fusegawa

細田誉翔 Takato Hosoda

本元 光 Hikaru Honmoto

丸山さくら Sakura Maruyama

森 雅臣 Masaomi Mori

山田博貴 Hiroataka Yamada

アパレンティス APPRENTICES

青木恵吾 Keigo Aoki

天木麻裕 Mayu Amaki

井隅 萌 Moe Isumi

今本和佳 Madoka Imamami

岩田 恒 Kou Iwata

大坪明日香 Asuka Otsubo

清水理那 Rina Shimizu

鈴木里佳子 Ricako Suzuki

高木明日花 Asuka Takagi

鳥羽瑞穂 Mizuho Toba

二本柳美波 Minami Nihonyanagi

花田美月 Mizuki Hanada

原 美咲 Misaki Hara

松田海空 Misora Matsuda

三澤由華 Yuka Misawa

向井裕一朗 Yuichiro Mukai

村上佳恵 Kae Murakami

横井彩乃 Ayano Yokoi

ORCHESTRA

ゲスト・アーティスト GUEST ARTISTS

伊坂文月 Fuzuki Isaka

宮尾俊太郎 Shuntaro Miyao

キャラクター・アーティスト CHARACTER ARTISTS

ニコライ・ヴィユジャニン Nikolay Viyuzhanin

ビャンバ・バットボルト Byamba Batbold

名誉音楽監督 HONORARY MUSIC DIRECTOR

福田一雄 Kazuo Fukuda

音楽監督/指揮 MUSIC DIRECTOR/CONDUCTOR

井田勝大 Katsuhiko Ida

管弦楽 ORCHESTRA

シアター オーケストラ トーキョー Theater Orchestra Tokyo





The New Equation

変わりゆく世界で成功し続けるために

The New Equation は、PwC の成長戦略です。

多岐にわたる分野の多様なプロフェッショナルがスクラムを組み、

「人」ならではの発想力や経験と「テクノロジー」によるイノベーションを融合しながら、

ゆるぎない成果を実現し、信頼を構築します。

It all adds up to The New Equation.

PwC Japan グループ

PwC あらた有限責任監査法人 PwC 京都監査法人 PwC コンサルティング合同会社
 PwC アドバイザー合同会社 PwC 税理士法人 PwC 弁護士法人

www.pwc.com/jp

PwC Japan グループは、日本における PwC グローバルネットワークのメンバーファームおよびそれらの関連会社の総称です。各法人は独立して事業を行い、相互に連携をとりながら、監査およびアシュアランス、コンサルティング、ディールアドバイザリー、税務、法務のサービスをクライアントに提供しています。

© 2023 PwC. All rights reserved. PwC refers to the PwC network member firms and/or their specified subsidiaries in Japan, and may sometimes refer to the PwC network. Each of such firms and subsidiaries is a separate legal entity. Please see www.pwc.com/structure for further details.



Orchard シリーズ



Presents

PLASTIC

K-BALLET Op+0

芸術監督／企画

舞踊監督

パレエ・マスター／ミストレス

〔TECHNICAL STAFF〕

照明デザイン

照明操作

音響

音響操作

大道具・小道具・履物

大道具制作（ペットボトル迷宮）

舞台監督

舞台監督助手

衣裳デザイン

衣裳制作

映像制作

トランスポートーション

協力

企画・製作

〔Bunkamura〕

エグゼクティブ・プロデューサー

チーフ・プロデューサー

プロデューサー

制作助手

票券

制作デスク

〔K-BALLET〕

チーフ・プロデューサー

プロデューサー

制作統括

カンパニーマネージャー

広報

衣裳製作

〔PROGRAM STAFF〕

アート・ディレクター

デザイン

編集

写真

ヘア＆メイクアップ

印刷

発行

主催

特別協賛

提携

特別協力

熊川哲也

渡辺レイ

西野隼人（ペットボトル迷宮） 山田 蘭（ビニール傘小町）

伊藤雅一

株式会社 流 (RYU)

貫井政仁 (N-1 Audio)

宮武剛史 (N-1 Audio)

株式会社ザ・スタッフ

坂田直哉・盧 雨凡（東京工業大学 塚本研究室）

狩俣康徳（株式会社ザ・スタッフ）

川原卓也

貫井倫佳

K-BALLET

星野一翔

株式会社トランスウェブ

株式会社矢島聰子事務所

Bunkamura／K-BALLET

加藤真規 森田智子

児玉晶子

大宮夏子 阿部未香

江上ゆか

中村真麻 石井のぞみ 柴田菜穂

星野綾乃

高野泰樹

三輪奈未

鈴木奈々子

水谷真弓

安藤歌穂

川島映子 東田景子 平賀万里乃

白田香太、飯島麻奈美（アトリエタイク）

アトリエタイク

結城美穂子

渡邊 肇

Ryuji Nozaki

株式会社東京印書館

Bunkamura／K-BALLET

Bunkamura／K-BALLET

PwC Japan グループ

KAAT 神奈川芸術劇場

森村泰昌／株式会社ほぼ日

白井エコセンター株式会社

大谷清運株式会社

株式会社 FORCETEC

日本バブルサッカー協会



Bunkamuraを支えるオフインヘルサブライヤー

OMRON 鹿屋 KIRIN 大和証券グループ 東急グループ

PLEASE
TIC